

科目名：基礎看護学実習Ⅰ (対象理解と日常生活援助) 単位数：1	担当者(実務経験)： 専任教員(臨床実務経験有) 臨地実習指導者(臨床看護師)	総時間数：45 時間	時期：1 年後期
科目目標： 1 健康障害をもち、入院療養生活を送る対象が理解できる。 2 対象とコミュニケーションを図ることができる。 3 対象に行われている看護とその必要性が理解できる。 4 対象の状態に応じた看護技術を実践することができる。 5 実習を通しての学びと自己の課題を明確にできる。 6 看護を実践する者としての倫理に基づく行動をとることができる。			
授業内容		授業方法	場所
1 対象を理解するために必要な学習ができる。 2 対象に必要な情報を収集することができる。 3 フィジカルイグザミネーションを用いて情報を収集することができる。 4 対象の生活環境について情報を収集することができる。 5 入院に伴う環境の変化について記述することができる。 6 対象に合わせたコミュニケーションをとることができる。 7 対象とのコミュニケーションを振り返りかえることができる。 8 対象に行われている看護援助の内容とその必要性を考えることができる。 9 対象に行われている看護援助場面に参加できる。 10 対象のバイタルサインの測定ができる。 11 対象に合わせた快適な療養環境の整備ができる。 12 適切なタイミングと方法でスタンダードプリコーションに基づく手洗いができる。 13 実習を通しての学びを述べることができる。 14 専門職を目指す看護学生としての自己の課題を明確にできる。 15 実習生としてふさわしい態度で取り組むことができる。 16 主体的に報告・連絡・相談ができる。 17 自己の心身のコントロールができる。 18 建設的な姿勢で指導を受け、指導を生かして実習に取り組むことができる。 19 カンファレンスにおいて意見交換し、主体的に学びを深めることができる。 20 個人情報を守ることができる。		病院実習 45 時間	岡山労災病院
評価方法 実習終了後に実習評価表のに基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準 60 点以上で合格とする。			

科目名：基礎看護学実習Ⅱ 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：2 年後期
科目目標： 1 受け持つ対象を統合的に理解できる。 2 受け持つ対象の看護診断（看護問題）ができる。 3 看護計画の立案ができる。 4 看護実践ができる。 5 看護記録を書くことができる。 6 実習を通しての学びと自己の課題が明確にできる。 7 看護を実践する者としての倫理に基づく行動をとることができる。			
授業内容		授業方法	場所
1 受け持ち対象を理解に必要な情報を収集できる。 2 情報を系統的に整理し、領域ごとに解釈ができる。 3 病態関連図を用いて、共同問題を明確にできる。 4 全体関連図を用いて、仮診断（看護問題）を導き出すことができる。 5 仮診断（看護問題）の根拠づけを行い、確定診断ができる。 6 対象に合わせた問題の優先順位が決定できる。 7 看護診断（看護問題）を解決するための期待される成果が設定できる。 8 期待される成果を達成するための看護計画が立案できる。 9 対象に必要な看護技術手順が作成できる。 10 看護計画・看護技術手順に基づいた看護実践ができる。 11 対象の安全・安楽、自立を考慮した看護実践ができる。 12 対象の状態、実践した看護とその結果が記録できる。 13 適切なタイミングで看護計画の評価ができる。 14 実習を通しての学びを述べることができる。 15 専門職を目指す看護学生としての自己の課題を明確にできる。 16 実習生としてふさわしい態度で取り組むことができる。 17 主体的に報告・連絡・相談ができる。 18 自己の心身のコントロールができる。 19 建設的な姿勢で指導を受け、指導を生かして実習に取り組むことができる。 20 カンファレンスにおいて意見交換し、主体的に学びを深めることができる。		病院実習 90 時間	岡山労災病院
評価方法 実習終了後に実習評価表のに基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準 60 点以上で合格とする。			

科目名：地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設看護) 単位数：2	担当者(実務経験)： 専任教員 (臨床実務経験有)	総時間数：90時間	時期：1年次前期
科目目標： 1 生活の場である施設について理解できる。 2 健康障害をもち、地域(施設)で療養生活を送る利用者を理解できる。 3 障害や老化とともに生活する利用者の持てる力(強み)を引き出す支援を理解できる。 4 就労支援の実際と人々にとって「働くこと」の意味について自己の考えを述べるができる。 5 生活介護・通所介護の実際について理解することができる。 6 実習を通しての学びと自己の課題を述べるができる。 7 学習者として望ましい態度で実習することができる。			
授業内容		授業方法	場所
【障害者支援施設・高齢者施設】 1 生活の場である施設の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。 2 施設の利用者の特徴について述べるができる。 3 利用者の1日の生活リズム、生活習慣について述べるができる。 4 利用者とのコミュニケーションを通して利用者の生活に対する思いや楽しさについて述べるができる。 5 利用者とのコミュニケーションや生活状況の実際を知ることで利用者が日常生活を送るうえでのニーズ(困っていること)を述べるができる。 6 利用者の健康及び身体の障害について述べるができる。 7 利用者の生活に必要な持てる力(強み)を述べるができる。 8 利用者の持てる力(強み)を引き出す支援の実際を述べるができる。 【就労継続支援】 9 就労継続支援A型、B型の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。 10 利用者の就労状況の実際と就労に対する思いについて述べるができる。 11 就労を継続するための支援の実際について述べるができる。 12 人々にとって「働くこと」の意味について自己の考えを述べるができる。		施設実習 90時間	高齢者施設 愛光園 天赦の里 ぬくもりの里 あおえ 就労継続支援：ネイチャー ファーム・桑野 ワークプラザ Café つみ木 生活介護：障害 者デイセンタ ーさくら・なず な、桑野フレ ンドリーハウ ス 通所介護：デイ サービスセン ターえんじゅ

<p>【生活介護・通所介護】</p> <p>13 生活介護・通所介護の法的根拠と目的・サービスについて述べるができる。</p> <p>14 利用者の生活介護・通所介護での1日の活動状況と生活支援の実際を述べるができる。</p> <p>15 居宅（生活介護・通所介護以外）での生活の様子と支援の実際について述べるができる。</p> <p>16 利用者とのコミュニケーションを通して利用者のサービスや生活に対する思いや楽しみについて述べるができる。</p> <p>【まとめ】</p> <p>17 地域で療養する人々の理解と、「生活」を支える支援について述べるができる。</p> <p>18 実習の学びから自己の課題を明確にできる。</p> <p>【態度】</p> <p>19 相手を尊重した態度をとることができる。</p> <p>20 守秘義務を遵守することができる。</p> <p>21 主体的に学習できる。</p> <p>22 自己の心身の健康管理ができる。</p>		
<p>評価方法 実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。</p>		

科目名：地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護・地域包括ケア) 単位数：2	担当者(実務経験)： 専任教員 (臨床実務経験有)	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 地域で疾病や障害を持ちながら療養する人々とその家族の身体的・精神的・社会的背景について理解できる。 2 療養者の望みを実現するためのアセスメントができ、援助計画を立案することができる。 3 在宅看護の目的、役割、看護援助が理解できる。 4 居宅介護支援事業所の役割と、地域で療養生活を送る人々を支える多職種連携について述べるができる。 5 地域包括支援センターについて理解できる。 6 地域の人々との交流を通して、人々の健康へのニーズと地域の互助活動の実際を理解することができる。 7 生活の場を拠点として行う看護である在宅看護の学習者として必要な態度をみにつけることができる。 8 在宅看護の特徴と役割について自己の考えを述べるができる。			
授業内容		授業方法	場所
【訪問看護】 1 療養者の健康上の問題と疾患や障害が及ぼす日常生活への影響について述べるができる。 (身体的側面) 2 療養者の在宅療養生活や疾患に対する思いや希望を述べるができる。 (心理的側面) 3 療養者を取り巻く環境や生活様式を捉え、日常生活への影響について述べるができる。 (環境、生活の側面) 4 療養者を支える家族・介護の状況について述べるができる。 (介護、家族状況の側面) 5 望みを実現するために必要な情報収集をし、4 つの側面で情報を整理することができる。 6 4 側面の情報を望みを実現するための促進因子か阻害因子かの視点でアセスメントすることができる。 7 関連図を用いて療養上の課題を導き出すことができる 8 望みを実現するために必要な目標と援助計画を立案することができる。 9 療養者の健康状態の把握に必要なバイタルサインの測定、情報収集、観察を行い、健康状態のアセスメントができる。 10 療養者と家族の価値観や生活様式を尊重した看護の実際について述べることができる。		施設実習 90 時間	訪問看護ステーション アミューズ富永岡山南 訪問看護・リハビリテーション しん はちみつ訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター 老人クラブ (でしゃばり隊)

<p>11 療養者と家族の自立と QOL の向上のための社会資源と看護援助について述べるができる。</p> <p>12 予測的視点をもった看護の実際と自分の考えを述べるができる</p> <p>【居宅介護支援事業所】</p> <p>13 居宅介護支援専門員の業務と役割について述べるができる。</p> <p>14 ケアマネジメントの過程を通して。多職種連携と求められる看護の役割について述べるができる。</p> <p>【地域包括支援センター】</p> <p>15 実習を通して地域の実情を述べるができる。</p> <p>16 地域包括支援センターの地域での役割について述べるができる。</p> <p>【老人クラブ】</p> <p>17 地域の人々との交流を通して、生活の実際と健康へのニーズについて述べるができる。</p> <p>18 地域の互助活動の実際と住民にとっての影響（効果）について述べるができる。</p> <p>【態度】</p> <p>19 訪問看護者としてふさわしいマナーで行動できる。</p> <p>20 療養者と家族の意思を確認し、意思に沿った援助を行うことができる。</p> <p>21 多様な価値観を受け入れ、対象を敬い、尊重した態度で接することができる。</p> <p>22 建設的な姿勢で指導を受けることができる。</p> <p>23 自己の心身のコントロールができる。</p> <p>【考察】</p> <p>24 実習を通しての学びから在宅看護の特徴と看護の役割について述べるができる。</p> <p>25 実習を通して自己の課題と今後の取り組みを明確にできる。</p>		
<p>評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする。</p>		
<p>評価基準 60 点以上で合格とする。</p>		

50 回生 シラバス

科目名：成人看護学実習Ⅱ（急性期） 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90 時間	時期： 3 年次
科目目標：1 手術療法および手術中の看護について理解する。 2 集中治療および集中治療を受ける患者の看護について理解する。 3 急性期にある患者を総合的に理解する。 4 手術前後の看護について理解する。 5 急性期にある患者に対して合併症を予防し、回復を促進させるための援助ができる。 6 内視鏡検査時の看護について理解する。 7 急性期にある患者の看護について考察する。 8 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 手術室実習 (1) 手術室という治療環境について述べる事ができる。 (2) 麻酔や手術が身体に及ぼす影響を述べる事ができる。 (3) 手術室における看護師の役割を述べる事ができる。 2 ICU 実習 (1) ICU という治療環境について述べる事ができる。 (2) ICU に入室している患者の特徴について述べる事ができる。 (3) ICU における看護師の役割を述べる事ができる。 3 病棟実習 (1) 急性期にある患者の健康障害の種類、経過、治療、潜在的な合併症について捉えることができ日々優先して観察するべき合併症が何か述べる事ができる。 (2) 急性期にある患者の身体機能の変化について述べる事ができる。 (3) 身体機能の変化が及ぼす日常生活や回復過程への影響を述べる事ができる。 (4) 手術前看護について述べる事ができる。 (5) 手術後看護について述べる事ができる。 (6) 急性期にある患者に対して合併症や二次障害を予防・最小限にするための援助ができる。 (7) 患者の状況に応じた看護援助ができる。 (8) 実施した看護援助について評価することができる。 4 内視鏡室実習 (1) 内視鏡前、中、後の看護について述べる事ができる。 5 急性期にある患者の看護についての考察 (1) 実践した看護を振り返り、急性期に必要な看護について述べる事ができる。 (2) 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にできる。 6 学習者として姿勢 (1) 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者・家族と関わる事ができる。 (2) 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 (3) 建設的な姿勢で指導を受ける事ができる。 (4) 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深める事ができる。 (5) 自己の心身のコントロールができる。		病院実習 (病棟、手術室、ICU) 90 時間	岡山労災病院
評価方法：実習終了後に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準：60 点以上で合格とする。			

科目名：老年看護学実習Ⅰ (回復期看護) 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 回復期にある患者を総合的に理解する。 2 回復期にある患者の残存機能を活かした援助を考え実践することができる。 3 保健医療福祉チームの一員として多職種協働連携のあり方について理解する。 4 回復期にある患者の看護について考察する。 5 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 患者の健康障害の種類、経過、治療、予後について述べることができる。 2 加齢に伴う変化や疾病に伴う障害が日常生活に与える影響を ICF の視点から述べるができる。 3 機能回復において患者と患者を支える人々が設定している目標を述べるができる。 4 健康障害によって起こる生活環境の変化が、患者と患者を支える人々に及ぼす影響について述べるができる。 5 現在の患者の加齢性変化と疾患に伴う器質的、機能的障害の変化に応じた援助を考え実践することができる。 6 疾病に伴う合併症・二次的障害および心身の状態に応じた援助を考え実践することができる。 7 残存機能を活かした援助を、社会的背景を踏まえて述べるができる 8 退院後の生活する場に応じた個別性のある援助を考え実践することができる。 9 回復期における多職種協働連携の意義と看護師の役割について述べるができる。 10 実践した看護を振り返り、回復期に必要な看護について述べるができる。 11 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にできる。 12 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者と患者を支える人々に関わることができる。 13 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 14 建設的な姿勢で指導を受けることができる。 15 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深めることができる。 16 自己の心身のコントロールができる。		病院実習 90 時間	岡山労災病院
評価方法 実習終了後に実習評価表の基づき、実習内容および記録より評価する。			
評価基準 60 点以上で合格とする。			

科目名：老年看護学実習Ⅱ (慢性期看護・終末期看護) 単位数：2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90 時間	時期：3 年次
科目目標： 1 慢性期にある患者を総合的に理解する。 2 終末期にある患者を総合的に理解する。 3 慢性期にある患者と患者を支える人々が抱える問題を理解し、社会復帰するための援助・支援を考え実践することができる。 4 終末期にある患者の苦痛の緩和を図り、QOL の維持向上ができるように援助する。 5 保健医療福祉チームの一員としてチーム連携のあり方について理解する。 6 慢性期・終末期にある患者の看護について考察する。 7 学習者として望ましい態度で実習する。			
授業内容		授業方法	場所
1 患者の健康障害の種類、経過、治療、予後、残存機能について述べるができる。 2 患者と患者を支える人々が健康障害に対して、どの程度の管理能力があるのか述べるができる。 3 患者と患者を支える人々が疾病をどのように受け止めているかを述べるができる。 4 疾病が及ぼす影響を全人的に捉え、患者と患者を支える人々の役割の変化について述べるができる。 5 患者の身体的・心理的苦痛と患者を支える人々の心理状況について述べるができる。 6 患者と患者を支える人々との関係性について述べるができる。 7 患者の QOL がどの程度維持されているか述べるができる。 8 疾病によって生じた機能低下が患者と患者を支える人々に及ぼす影響を考え、残存機能を活かした援助を実践することができる。 9 疾病によって生じた二次的障害に対する援助を考え実践することができる。 10 患者と患者を支える人々に求められる療養行動について、個別的な援助を考えることができる。 11 患者の身体的、心理的苦痛の緩和を図るための援助を考え実践することができる。 12 現在の状況から予測される合併症、二次的障害に応じた援助を考え実践することができる。 13 患者の QOL を維持向上するための援助について考えることができる。 14 チームによる多角的アプローチが患者に与える効果について述べるができる。 15 実践した看護を振り返り、慢性期・終末期に必要な看護について述べるができる。 16 実践した看護を振り返ることで自己の課題を明確にすることができる。 17 倫理的配慮を持って、人間としての尊厳を重んじた態度で患者と患者を支える人々に関わることができる。 18 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる。 19 建設的な姿勢で指導を受けることができる。		病院実習 90 時間	岡山労災病院

50 回生シラバス

- | | | |
|---|--|--|
| <p>20 積極的にカンファレンスなどで意見交換しながら学びを深めることができる。</p> <p>21 自己の心身のコントロールができる。</p> | | |
|---|--|--|

評価方法

実習終了後に実習評価表の基づき、実習内容および記録より評価する。

評価基準

60 点以上で合格とする。

科目名： 小児看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨床実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1. 小児の生活・遊びの場面を通して、健康な小児の成長発達を理解する。 2. 外来を受診する小児と家族の特徴を理解する。 3. 小児の健康の保持増進・疾病の予防に関する外来看護を実践する。 4. 小児を取り巻く保健・医療・福祉の連携における看護師の役割を理解する。 5. 小児の発達段階および家族の状況を理解し、健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響を理解する。 6. 小児の特徴を理解し、小児および家族に対して必要な看護援助を明確化できる。 7. 小児と家族の最善の利益を考え、尊厳と権利を擁護し、学習者として望ましい態度を養う。 8. 小児看護の特徴と役割について自らの考えを記述できる。				
授業内容		授業方法	場所	
1. 小児各期の成長発達について述べるができる。 2. 発達段階に応じた日常生活援助の方法について述べるができる。 3. 遊びの意義を理解したうえで、発達段階に応じた遊びについて述べるができる。 4. 小児の成長発達に応じた危険防止の方法を考察することができる。 5. 健康な小児の成長発達をふまえた関わりができる。 6. 外来を受診した小児と家族の健康障害の程度や段階を述べるができる。 7. 感染症および伝染性疾患の感染拡大防止のための具体的な方法を外来の環境をふまえて述べる事ができる 8. 指導者と共に、安全に留意しながら、発達段階に応じた診察・検査・処置時の援助ができる。 9. 受け持った小児・家族への看護の実際から、外来看護に求められる役割を述べるができる。 10. 乳幼児健診について述べるができる。 11. 予防接種の目的や内容、それに関わる看護師の役割を述べるができる。 12. 子どもの健康状態・成長発達状況・基本的な生活習慣についての情報を意図的に収集できる。 13. 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響をアセスメントできる。 14. 健康障害や入院が成長発達に及ぼす影響をふまえた看護問題を抽出できる。 15. 健康障害や入院が成長発達に及ぼす影響をふまえた子どもの発達段階に応じた日常生活援助について述べるができる。 16. 子どもの状態を考えた遊びや学習について述べるができる。 17. 子どもの健康障害や入院が家族に及ぼす影響と必要な看護援助を述べるができる。 18. 子どもを取り巻く危険因子を捉え、その対応策について述べるができる。 19. 倫理観に基づき、小児を一人の人として尊重し、小児・家族と関わるができる。 20. 適時、適切な人に報告・連絡・相談ができる。 21. 建設的な姿勢で指導を受けることができる。 22. カンファレンスで積極的に意見交換しながら、主体的に学びを深めることができる。 23. 自己の心身のコントロールができる。 24. 小児看護の特徴と看護師の役割について述べるができる。 25. 実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にできる。		保育所実習 18時間 外来実習 36時間 病棟実習 36時間	ひかりこども園 倉敷市民病院 小児科外来 すこやかクリニック 倉敷市民病院	
評価方法 実習終了時に実習評価表に基づき、実習内容および記録より評価する。				
評価基準 60点以上で合格とする。				

50 回生 シラバス

科目名： 母性看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1. 周産期にある対象が理解できる 2. 周産期にある対象をウェルネスの視点でとらえ、対象に必要な看護が理解できる 3. 学習者として望ましい態度で実習することができる 4. 母性看護学実習を通して生命の尊厳や母性について自己の考えを深めることができる				
授業内容			授業方法	場所
1. 妊娠期にある女性の特性について、身体的・心理的・社会的側面から述べるができる 2. 分娩期にある女性の特性について、身体的・心理的变化を中心に述べるができる 3. 産褥期にある女性の特性について、身体的・心理的・社会的側面から述べるができる 4. 新生児の特性について、早期新生児期の生理的特徴を中心に述べるができる 5. 対象者を取り巻く環境について、家族の役割・機能を中心に述べるができる 6. 対象把握に必要な情報を収集できる 7. 得た情報をウェルネスの視点でとらえ、アセスメントできる 8. 対象の状態に応じて、必要な看護を抽出することができる 9. 対象に必要な看護を見学・実践し、評価することができる 10. 周産期にある対象を取り巻く多職種連携の実際を知ることができる 11. 倫理観に基づく判断・行動ができ誠実な態度で対象を尊重することができる 12. 適切なタイミングで報告・連絡・相談ができる 13. 建設的な姿勢で指導を受け、主体的に実習に取り組むことができる 14. カンファレンスで積極的に意見交換しながら、主体的に学びを深めることができる 15. 自己の心身のコントロールができる 16. 母性看護の意義と役割について述べるができる 17. 自己の母性・父性意識を認識し、愛着形成や親役割獲得について述べるができる 18. 実習を振り返り振り返ることで自己の課題を明確にできる			病院実習 90時間	香川労災病院 中国労災病院
評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする 評価基準 60点以上で合格とする				

50 回生 シラバス

科目名： 精神看護学実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 専任教員（臨床実務経験有） 臨地実習指導者（臨床看護師）	総時間数：90時間	時期：3年次
科目目標： 1 対象の理解を深める。 2 精神の健康状態に応じた日常生活行動の自立のための援助を行なう。 3 精神医療における看護の役割を理解する。 4 患者－看護師の相互関係の中で自己を振り返る。 5 学習者として望ましい態度で実習に取り組むことができる。				
授業内容			授業方法	場所
1. 対象を理解する上で必要な基礎学習ができる。 2. 受け持ち患者の情報収集ができる。 3. 受け持ち患者の行動の意味を述べることができる。 4. オレムアンダーウッドモデルを用いたセルフケア要素の情報を分析解釈できる。 5. 適切な看護問題を抽出できる。 6. 看護問題に対し計画立案できる。 7. 計画の実施・評価ができる。 8. 患者が主体であることを理解し行動できる。 9. 精神医療における看護師の役割について述べるができる。 10. 精神医療における看護職以外の職種の役割について述べるができる。 11. デイケアについて述べるができる。 12. 社会療法としてのレクリエーションについて述べるができる。 13. 患者との信頼関係を築く為に何が必要か述べるができる。 14. 患者との関わりを受容・傾聴の視点で振り返ることができる。 15. 実習期間を通して自己洞察を深めることができる。 16. 毎日の振り返りやカンファレンスに積極的に参加できる。 17. 指導を受けた事を学びとして取り入れることができる。 18. 必要な報告・連絡・相談ができる。 19. 倫理的配慮にもとづき実習ができる。			病院実習 90時間	慈圭病院
評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする。				
評価基準 60点以上で合格とする。				

50 回生 シラバス

科目名： 看護の統合と実践実習	単位数： 2	担当者（実務経験）： 教務長（臨床実務経験有） 臨地実習指導者	総時間数： 90	時期： 3年次
科目目標： 1 病院組織における看護部の役割、病棟看護師長の役割を学び、看護管理の実際を理解する。 2 看護チームにおけるリーダーの役割を学び、看護チームの一員としてのリーダーシップ、メンバーシップの重要性を理解する。 3 複数患者受け持ちを通して、多重課題時の優先順位や時間配分を判断し看護実践する。 4 夜勤帯の病棟環境の特徴と看護の留意点を理解する。 5 看護者として望ましい態度がとれる。 6 実習を通しての学びを記述し、看護専門職としての自己の課題を明確にする。				
授業内容			授業方法	場所
1. 看護師長の役割・業務(看護単位のマネジメント)の実際について説明できる。 2. 医療・看護の質における看護管理の重要性について説明できる。 3. 看護チームの一員としてリーダーシップ、メンバーシップについて説明できる。 4. 看護チームでの患者情報共有のための行動がとれる。 5. 受け持ち患者の状態を適切にアセスメントし、必要な看護が計画できる。 6. 複数患者の看護を実践するために適切なタイムスケジュールが立案できる。 7. 計画に基づく実施ができるよう行動し、状況に応じて計画の修正、変更、調整ができる。 8. 夜勤帯における療養環境の特徴について述べる事ができる。 9. 夜勤帯における患者の観察について述べる事ができる。 10. 夜勤帯における看護の留意点について述べる事ができる。 11. 倫理観に基づく判断、行動であり、誠実な態度で対象を尊重することができる。 12. 実習期間を通して責任を自覚した学習姿勢で臨むことができる。 13. 自己の傾向を踏まえ、看護専門職として高めるべき倫理的行動について記述できる。			病院実習 90時間	岡山労災病院
評価方法 実習評価表に基づき出席状況・実習記録・実習態度等による総合評価とする。				
評価基準 60点以上で合格とする。				